令和６年度第６回富山県総合教育会議　議事録

１　日　時　　令和７年３月 26 日（木）13:30～14:24

２　場　所　　県庁４階大会議室

３　出席者　　富山県知事　新田　八朗
富山県教育委員会
教育長　廣島　伸一
委　員　坪池　宏
委　員　大西　ゆかり
委　員　黒田　卓
委　員　牧田　和樹
委　員　松岡　理

４　事務局出席者

経営管理部長	南里　明日香
理事・経営管理部次長	坂林　根則
理事・教育次長	水落　仁
教育次長・教育みらい室長	中﨑　健志
教育次長	小杉　健
参事・教育企画課長	板倉　由美子
学術振興課長	水上　優
県立高校改革推進課長	丸田　祐一
教育みらい室課長	嶋谷　克司
他関係課職員数名	

５　議　事
（１）県立高校における教育振興について
- 「新時代とやまハイスクール構想」基本方針（案）

（２）公私立高等学校連絡会議について

６　会議の要旨
司会が開会を宣し、新田知事の挨拶後、富山県総合教育会議運営要領第３条並びに知事の指名に基づき、以後の議事については南里経営管理部長が進行した。

（１）県立高校における教育振興について
- **「新時代とやまハイスクール構想」基本方針（案）**

（南里経営管理部長）

・事務局から「新時代とやまハイスクール構想」基本方針(案)について説明する。丸田県立高校改革推進課長が、資料 1「基本方針（素案）に対する主なご意見と県の考え方」から資料 4「今後の流れ（案)」について説明した。

（南里経営管理部長）

・委員の皆様からご意見いただきたい。

〇委員からの意見

（牧田委員）

・2 点ある。1 点目。我々は今、基本方針を検討しているが、基本方針はまさに基本になる方針であって、今後の動きを固く縛るものではないと思っている。

・この素案を最初に出した段階で、いろいろなご意見を伺ったり、またいろいろなところで公開したりして、中身が基本方針から少しずつ応用方針に変化しているような気がしている。例を挙げると、議会でも規模が問題になったが、規模というのは、大規模、中規模、小規模と言っているぐらいで私はいいと思っていた。ところが、いろんな方が大規模は何人だとか、中規模はどれぐらいを指すのだということをどんどん質問をされたがゆえに、シームレスに規模をくっつけたり、無理やりその数を 20 校から 22 校にしたりなど、この方針に反映されている。でも、そんなことは未確定だ。

・基本方針で一番大事なことは、15 年後の姿をイメージしてそこからバックキャストして学校のあり方を考えようという、その 1 点のみが基本方針で貫かれるべきことであって、例えば大規模がどうだとか、今回追加された職業学科の表も私は特段必要ではないと思っている。職業科をどう設置するかは、当然その時々に応じて変わっていく。ところが、基本方針に載っているからということで、逆に足かせをつけてしまうことが起こることは、基本方針の趣旨から外れていくのではないか。

・理念法などを作る際には、最初に考え方というのがある。資料の「県立高校のあり方検討の進め方」はあくまでも基本方針であって考え方を示すようなもので、今後の検討によってブラッシュアップしていくものだというような文章が入ればよいのではないか。それが無理だとすれば、このことを広く周知することを考えたほうがいい。前回の総合教育会議で申し上げたが、残念ながら 15 年後にここにいる人は誰もいない。そうすると書かれたものだけが残っていくので少し怖いと感じた。

・もう 1 点。資料 3 の 13 ページに「６活力ある学校・組織づくり」とある。タイトルには組織と入っているが、その下の（1）（2）（3）に組織という言葉が一切出てこない。学校運営と組織は表裏一体という考え方もあるかもしれないが、私はあえて、学校組織もいろいろ検討しなければこれからの教育は変わっていかないだろうと思っている。タイトルで活力ある学校組織づくりと書いてあるのに、中に組織という言葉が全然出てこないので、例えば（1）で「教育効果を高める学校運

営について」を「教育効果を高める学校組織や運営について」など、組織まで変えるのだということを入れておいたほうがいいと思う。

（坪池委員）

・今回の基本方針の修正案は、様々な意見を踏まえて、例えば、大規模校の規模であるとか配置の目安などが書かれていて、大変よくまとまっているので今後の議論のベースになるものとしては非常によくできたものだと思う。
・牧田委員からも指摘があったが、まとまりすぎて、今後の検討を縛りすぎては駄目なのではないかということがある。むしろ、ここに出てきたものよりも、これまでいろいろ検討したり協議したり、その経緯や内容こそが重要ではないかと思う。繰り返しになるが、来年度以降のベースになるものとしては非常によくできている。

（黒田委員）

・大変ご苦労されて修正案を作っていただいたのだが、基本的にはいじりすぎているのかなと思う。確かに、いろいろなご意見を踏まえて直すべきところは直していくことは大切だが、ただ、ご意見の中には、なぜこういう再編をしていかないといけないのかという理由や、大規模校に関してはいろいろな意見が出ていたが、大規模校はどういう学校なのかというイメージがちゃんと伝わらないまま、学校数だけへの意見が非常に多くなってしまっているのではないかと思う。
・2021 年にユネスコが「私たちの未来を共に再考する」という報告書を出している。その中で、これからの学校のあり方を幾つか示している。例えば、「学校は多様な集団が一緒になって、日常生活においては必ずしも向き合うことのできない挑戦や可能性に向き合うことができる場でなければならない。学校の組織、空間、時間、時間割及び生徒集団は、個々人が一緒に学ぶことを奨励し、可能にするように再設計されるべきである。」とある。国連が具体的には 2050 年辺りを目途にということで出されている報告書だが、改革と合致するところが大きいのではないか。今ちょうど学習指導要領の改訂も行われているが、そういった中でも、この辺りは反映されてくるものではないかと思っている。
・そうした時に、先ほど言った多様な集団が一緒に学ぶことは、特に親世代、既に高校を卒業した世代の人たちにとって経験したことのなかった状況だと思う。そこをもう少し理解していただかないとまずいのではないかと思っており、今日、資料を用意させていただいた。大規模校のイメージと捉えていただいても構わないが、日本を見れば、もう既にそういう高校はある。その中で有名なところとして、埼玉県立伊奈学園総合高校や千葉県立幕張総合高校などは、今我々がイメージしている大規模校のモデルになる高校といえると思う。いろいろな教科、いろいろな科目を実現でき、通常のクラスはいろいろなコースの人たちがまざって作られている。ただ、総合選択制の高校なので、カリキュラムは一人一人違っている。授業を受けるときは、クラスは解体され自分の選択した授業を受ける。ハウス制で 1 学年 20 クラス、今我々が想定している倍以上の学校。運営上、こういう

ハウスという単位を作り、5つもしくは6つの学校が同じ敷地内で動いているイメージの学校である。

・授業科目は、外国語では英語のみならず、ドイツ語、フランス語、中国語なども開講されているなど、その他いろいろな科目がある。商業の科目や農業の科目もある。1 年次はほぼ必修の授業で埋まるが、2 年次、3 年次となるに従って、生徒は自分の学びたい、例えば進路に必要な科目を履修する形で単位を取って卒業する。大学のイメージにかなり近いかもしれないが、こういったものが、既に世の中にはある。この学校も新しい学校ではなく、こういう形で作られた中では新しいかもしれないが、もう創立 41 年、40 年以上の実績を持っている。入試制度に関してもいろいろな工夫をして、様々な特徴を持った生徒をとれるようなことを実際にやっている。

・部活動は運動部だけで 29 部、文化部が 25 部。同好会なども入れると 50 以上の部活動が展開されている。活動も非常に盛んで、運動部などは全国大会にもよく出てくる高校になっている。そういったことを可能にしていくためには、やはり先生がいないと科目もつくれないし、部活動の担当も持てない。先生の数は、実はクラスの数で決まってくることが意外と知られていない。どれぐらいの規模の学校で、どれぐらいの先生が配置できるかは国の基準で決まっている。これだけダイナミックなことをやっていこうとすると、大きなところが必要になってくる。小さくなればなるほど、いくらやりたくても担当できる先生がいない。ある科目を受けたいのだけど、担当できる先生がいらっしゃらないといったような学校が出てくる。

・多くの方が、自分が高校に通っていた時にはあったのに、と思ってらっしゃるかもしれないが、子どもたちの数は減ってきて、実際の学校は非常に大変な状況にある。働き方改革なども言われているが、先生の数が減ると先生 1 人にかかってくる仕事の量は莫大に増えていく。学校の規模が小さかろうが大きかろうが、学校行事やいろいろな校務分掌の数は変わらない。そうすると、小規模の学校の先生は複数の校務分掌を抱えて、夜も眠れない状況になっている。そういったことを解消していくためにも、もちろん一番大事なのは、生徒が自分の学びたいことをちゃんと学べる、いろいろな人たちと関わって、意見を交わせる学校を作っていくというところが、今回の重要なところであり、大規模校を作ることの意味ではないかと思う。そういうことをしっかりと伝えて議論していただかないと、せっかくいろいろな意見は出ているが、あまり理解されていないというところが多かったのが少し残念かなと思う。したがって、そのような意見の一部分だけを取ってきて数字を変えるようなことは、あまり必要ではないかなというのが私の意見である。

（大西委員）

・今回の案に関しては、様々な意見を集められ、そして再考され見直しをされてできた基本方針案が提示されたものと思う。他の委員さん方が細かくなってガチガチになるのはどうだろうかというようなご意見も出たが、細やかにいろいろない

くつかの観点が加わり、それはそれでよいのではないか。今後検討しなければいけない項目として挙げていただくことで、しっかりとそれについて議論ができることでよいのではないか。

・中でも、これまでひとくくりにされていた職業系専門学科については、県立高校教育振興検討会議の提言で整理された見直しの方向について追記され、これもこのままということではなく、今後の時代の傾向や地域の企業や業界そのものの動向なども反映していただき、また上級の教育機関とも連携していただき、よりよいものにしていただけたらと思う。

・気になったのが、目指す姿の実現に向けた検討方針で、入試制度の見直しが新しく盛り込まれた。これを入れていただけたことは、教育委員会の中でも話題になっていたので、とてもよかったと思うが、「2 次募集を含めた」に少しウエイトがかかっているのではないかと感じた。項目だけ見ると、入試制度の見直しということになるので、ゼロベースでの入試制度の見直しを考えていただく機会としていただきたい。

・黒田委員からのお話もあったが、私たち大人は自分の経験や自分の知識の範囲の中で常識を位置付けてしまうため、どうしても大規模校のイメージができず、発言や考え方にも反映されてしまっての意見となる。私もいろいろな意見を見て、そう感じたが、そういうことに引き寄せられないというか、寄らないように、学校経営や特にこういう新しい形の学校を立ち上げるために力となられるような方が、この検討委員会の中におられたら良いのではないか。またそういう方を招いての研修会が必要ではないかと思う。

（松岡委員）

・今回のこの見直しに関して、参考資料にも挙げていただいているように、とてもたくさんのご意見が集まったということで見させていただいた。本当にいろんなご意見があって富山県の県民の方のこれから残る子どもたちへの期待の大きさとか、そういったものを強く感じた。

・先ほど牧田委員もおっしゃったように、今議論している世代の者たちがいなくなった時代に活躍していただくことが前提となっている。意見の中には、新しい教員が新しい学校を作っていく姿勢が必要だ、とか、そのような学校で勤めたいというご意見もあった。この案の中にも、現場教員の意見を聞きながら、という文言を取り込んでいただいたということなので、令和 20 年のときに現役で頑張っていらっしゃる先生ということになると、現在 40 代前半くらいの先生方になるかと思う。そういった若い先生はすごくいろいろな仕事を抱えておられて大変だとは思うが、まずそういう先生方にどうしていきたいからどうしていくべきかをお話して、この計画に参加していただくことが非常に重要だと思う。そういった機会がきちんと確保されることが重要。

（廣島教育長）

・5 人の委員さんからご意見いただいた。県議会に出席していた立場から、県議会

での議論で2点ほど報告させていただく。

・まず牧田委員からあった、この基本方針の性格については、2 月定例会中の常任委員会で、これに 100%縛られるものなのか、どういう性格なものなのかという質問があった。私どもの方から、当然今後もいろいろな新しい意見が出てきて、意見を戦わせながら方向性を決めていくんだと、これがやるべき姿であろうと。そうした意見もお聞きしながら、丁寧に議論を進めていきたいと。そういうことで、必ずしもこの基本方針に縛られるものではないという答弁をさせていただいた。今日こうした議論をしたことが、議事録に残る。こうして残していくことで、黒田委員の意見にあった、いろいろな意見があったことは残る。

・もう 1 点。たくさんの質問があった中で、新田さんからも答弁いただいたが、やはり何のためにやるのかということを忘れないでいこうということ。こどもまんなかの視点に立つ。そして、学びたい、学んでよかった学校、子どもの側から見てそういう学校をつくること。私どもからすれば資料に掲げてある基本目標を新時代に適用し、未来を拓く人材の育成、大人側のみからの見方かもしれないが、何のために議論しているのだということがもし迷路に入りそうだったら、やはりここに立ち返って私どもは考えるべきでないか。こういうようなことも、言っていただいたのかなあと感じているところである。

(新田知事)

・先ほど大西委員から入試制度の見直し等についてご意見があった。これは新設した項目。(1) と (2)、(3) と微妙に書き振りが違う。(2)、(3) は、外国人生徒に係る特別入学枠における選抜方法を1期目にやる。2期目では、中高一貫校の選抜方法について研究し、実施する。2期目までにということで、資料3の8ページの矢印もそこまでになっている。(1) は、非常に丁寧な言い回しで矢印も最後まで伸びている。ということは、やろうかな、やらないでおこうかな、やらないかもね、ということを暗に示しているのではないかということを、私は感じる。私は、この新時代ハイスクール構想は本当に大きな変革になると思う。各地でご意見をいただいた入試制度についても、ここに項目を入れただけではなく、見直しが必要。今、私が受検した 50 年前と同じようなことがまだ続いているのだと思うし、やはり変えるべきときかなと思う。したがって、(1) の言い回しももう少し前向きに変える必要があろうかと思う。

(南里経営管理部長)

・今回の協議内容を踏まえ、「新時代とやまハイスクール構想」基本方針（案）について、最後に知事からご発言をいただく。

(新田知事)

・冒頭にも申し上げたように、昨年 4 月の提言を踏まえて、それを土台にして今日まで 6 回の議論を重ねてきた。さらに意見交換会、ワークショップ、高校生との意見交換、パブリックコメント、それから 2 月定例会もあった。本当に多くのご

意見をいただき、我々は柔軟にそれを受け止めて変えるべきものは変えてただ今の案になってきたと理解している。今日この場でも幾つもの意見が出た。若干、修正も必要かと思う。今日いただいたご意見を踏まえ、事務局で再度整理をして、委員の皆さんにご確認いただいた後、あまり日はないが 3 月中に公表できるよう進めてもらいたい。

・新年度は、公表する予定の基本方針に沿って、大規模校の設置方針、各期に開設する新時代とやまハイスクールの方向性、また第 1 期校の開設について具体的な議論を進めていく必要がある。新たな検討会議については私たち総合教育会議の委員の他に、学識経験者、また教育関係者、そして経済界、保護者の代表にも加わっていく形で進めたいと考えている。引き続きよろしくお願いしたい。

（南里経営管理部長）

・ただいまの知事のご発言にもあったが、新時代とやまハイスクール構想の基本方針については、本日のご議論を踏まえ、事務局において必要な修正を行い、委員の皆様に確認して決定する形でよろしいか。3 月中に公表予定と聞いており、皆様よろしくお願いしたい。

（２）公私立高等学校連絡会議について

（南里経営管理部長）

・事務局から資料５について説明する。
水上学術振興課長が、資料 5「令和 6 年度第 3,4 回富山県公私立高等学校連絡会議の開催結果」について説明した。

（南里経営管理部長）

・以上で本日の議事を終了する。

この後、事務局より、閉会の挨拶を行った。

以上